

令和6年度第2回相模原高等学校学校運営協議会 議事録

期日 令和6年8月28日（水）15時30分～17時00分

場所 神奈川県立相模原高等学校 会議室

出席 石井委員、伊藤委員、河西委員、清水委員、平岩委員、眞柄委員、田代校長

木村副校長、千葉教頭、鳥海事務長、岩滝総括、諸岡総括、中西総括、荻野総括、
神野総括

欠席 藤野総括

1. 開会

副校長 挨拶

校長あいさつ 県相生の部活動等活躍状況について説明。

2. 授業参観について委員の意見

- ・体育の授業が共修で驚いた。
- ・授業に対して静かにまじめに取り組んでいた。
- ・教室の机の間隔が狭いと感じた。
- ・先生がフォローしながらおこなっていた。話し合いの場面になると、生徒は躊躇なく取り組んでいる印象があった。普段からそのような活動が行われているのだろうと感じた。
- ・授業について生徒が主体的に取り組んでいる印象があった。

3. 各グループの取組について協議

(委員) キャリアG: 進路実績の向上の要因はあるか。→ 生活習慣と学力には相関関係があると感じ、学習記録カードをもとにフォローした。自宅学習は週に20時間目標に生徒へ投げかけている。中学校の時に、学校でまじめに取り組んできた生徒が多い。学校で手をかけて生徒の自立を促していくことが必要だと感じている。

(委員) 生徒が言語化し教員がフィードバックするということが有効なのだと感じた。

(委員) SSHや色々な行事等をおこなっているが、職員のワークライフバランスについてどうなっているか。→ SSHでは、校外活動など職員の負担がある。ここで話す内容ではないかもしれないが、県外のSSH指定校の状況と比べた時に、神奈川県は、教員の加配が少ない。部活動など忙しい職員もいると思うが、一昔前よりは休みも取りやすくなっていると思う。

(委員) カリキュラムが学校の顔であり今後、結果がどのようになるのか楽しみである。

(委員) SSHの高大連携とキャリアを考えている大学の擦り合わせができてくるとよいと感じた。

(委員) 職員研修ができるシステムがあればよいと感じた。

(委員) 地域の防災活動などの連携について考えている。生徒がドロップアウトしないように先生方が取り組んでいるのだろうと感じた。